

やすらぎ通信

第 38 号 (平成 26 年 1 月 1 日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

睦月(むつき)

冬の夜

文部省唱歌

作詞・作曲 不詳

燈火(ともしび)近く衣(きぬ)縫(ぬ)う母は
春の遊びの 楽しさ語る
居並(いなら)ぶ子どもは指を折りつつ
日数(ひかず)かぞえて喜び勇む
囲炉裏火(いろりび)はとろとろ
外は吹雪(ふぶき)

囲炉裏のはたに縄(なわ)なう父は
過ぎいくさの手柄(てがら)を語る
居並ぶ子どもはねむさ忘れて
耳を傾けこぶしを握る
囲炉裏火はとろとろ
外は吹雪

年が改まり1月となりました。皆様、あけましておめでとうございます。今年も大阪府立急性期・総合医療センターを、そしてまたこのやすらぎ通信をよろしく願いいたします。

1月の和名は「睦月（むつき）」、語源は親類縁者が互いに行き来して、仲睦まじくする月とする説が有力です。一方、正月という言葉も一般的です。こちらの方は三が日か松の内(1月7日或いは15日)くらいまでしか使われない印象がありますが、「正」はあらためる、きちんとするなどの意味があり正月とは「魂が若返り、新しくなる月」「1年の初めの月」を意味しているのでしょう。

さて、今月の「季節のことば36選」には「初詣(はつもうで)、寒稽古(かんげいこ)、雪おろし」が挙げられていますが、何分行事の多いお正月ですから選者も悩まれたのではないかと思います。例えばほかの候補をざっと挙げて「門松」、「雑煮」、「七草粥」、「羽根つき」、「百人一首」、「初売り」、「お年玉」、「書き初め」、「どんと焼き」、「鏡開き」或いは「年賀状」や「お年玉」も外せないような気がします。

これだけ一つの時期にいろいろな伝統行事を育んできた我が国の精神文化の豊かさに今更ながらに驚かされますが、これらの行事の多くがテレビで風物詩として見ることはあっても一般的な家庭や地域で行われることがずいぶん失われてきたように感じます。確かにマンションの多くなった住居で門松は無理でしょうし、一戸建てにしてもあとの始末を考えると思わずためらってしまいます。「羽根つき」や「百人一首」は電子ゲームに、「年賀状」も携帯メールに取って代われようとしています。

季節の言葉に選ばれた「初詣」にしても、年末に子供が孫を連れて親元に帰省し、同様な兄弟姉妹も揃い、親とともに新年を祝い、近所の神社に初詣に出かけ、親せき等へもあいさつ回りに伺う、このような感じだったのでしょう。今でも「初詣」は盛んですが、テーマパークに出かけるが如くの感じがしない訳ではありません。

伝統というものはそれを使う人々によって守られ継承されるものですから、人々の生活の変遷に伴い変化していくことは仕方ないこととは思いますが、しかし今一度それらの行事が本来持っていた意味を振り返り、時代に沿った形に少々変わるにしてもその精神が次の時代にしっかり受け継がれていくことを願わずにはられません。



昨年といっても先月のことですが、和食文化がユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録されました。この文化遺産はこれまで世界で257件が登録されており、日本からは歌舞伎など21件が入っています。このうち食文化の関係ではこ

れまでフランス料理の美食術、イタリアなどの地中海料理、メキシコの伝統料理、トルコの麦粥食が登録されています。

世界中で今、和食がブームと言われる状態の中での登録は喜ばしいことですが、内実は決して和食の世界的位置づけを確固たるものにしたという単純なものではないようです。そもそも登録のきっかけは、和食の本家である我が国の食生活の変化により日常の食から和食の存在が希薄となってきた危機感から京都の料理界が中心となって登録への活動が始められたものです。食は生きるために必要なものですが、単に栄養を摂るためだけのものではありません。その背景には食を通じたそれぞれの民族の伝統が凝縮されている大切な文化であるといわれています。前述したお正月らしいことばの中に挙げた「雑煮」や「七草粥」も素朴な料理ですが、食が密接な伝統行事と結びついている例と言えます。いわゆる食文化は、その土地の生み出す食材を使い、地域の世界観・宗教観・生活観が反映されなかつその地に住む人々の嗜好に合うように育まれてきたものです。このため今回の指定も「和食文化 日本人の伝統的な食文化」が登録名とされています。

しかしながらすでに食生活の洋風化は著しく進み、私たちが日常的に和食を食べていると言えるような状態ではなくなっています。登録の意義は何も日本料理を世界に知らしめるということよりも、我が家のごはんが和食から離れつつあることを改めて自覚しもう一度私たちの風土に合った日々の食事というものを守っていくことを再認識することではないでしょうか。

和食の特徴には、「新鮮で多様な食材とその持ち味の尊重」、「栄養バランスに優れた健康的な食生活」、「自然の美しさや季節の移ろいの表現」、「正月行事などの年中行事との密接なかかわり」があるといわれています。むろんこれらを厳密に守るような形で日々の食事を用意することは忙しい私たちの生活の中ではなかなか難しいでしょうが、和食を守るためにと肩肘張ってたいそうなものを作るのではなく基本、ごはんにだしからとった汁物そして旬で最も安くなった頃の近くで採れた食材を使った主菜・副菜の数品を添え、行事の時には昔から続く頑固なメニューにしてみるということを目ごころから少し意識して作る、摂るということでもまずは十分なのかもしれません。何よりも無理せず続け、舌に忘れられない記憶として残していくことが大切に思われます。

有名な日本料理の美食家と言われた北大路魯山人のことばの中に「日常料理は常に自分の身近から新しい材料を選び、こみ上げてくる真心で作らなければならない」とあります。地産池消という言葉がありますが安心して安全な身近な食材に支えられ、作る人が食べる人のことを考え、食べる人も作った人の思いを受け止め、同じ食卓で同じものを分かち合って食べ、「いただきます」「おいしいね」「ごちそうさま」という言葉のやり取りのある食事、そういうものが和食であり、この世界に誇るべき文化を決して遺産にすることなく日々の暮らしに残していきたいものです。

⇒ 今月号の ～ちょっとおいしい話～は「ブリの柚庵焼き」です。皆さんの和食メニューの一品にお加えください。

【(新) ～地域の医療機関の皆様へ～ C型慢性肝炎の新しい治療が始まります！】

C型慢性肝炎は無症状に経過し肝硬変や肝臓がんに進む病気です。

約20年前からインターフェロンを中心としたC型肝炎ウイルス(HCV)に対する抗ウイルス治療が行われるようになり、HCVが排除された方では肝臓がんの発生が抑制されます。当初のインターフェロン単独治療では難治性C型肝炎(血清グループ1型、高ウイルス量)に対するウイルス学的著効率が5%程度であったものが、ペグインターフェロンとリバビリンの2剤併用で50%と治療効果が進歩しています。さらに近年の世界的なDAA(Direct-acting Antivirus Agent)としての抗ウイルス剤開発により難治性C型肝炎でも90%の著効が得られるようになりました。

2011年11月から保険使用可能となったプロテアーゼ阻害剤であるテラプレビルとペグインターフェロン+リバビリンの3剤併用に続き、昨秋には第2世代プロテアーゼ阻害剤のシメプレビルが承認され3剤併用療法として2013年12月から使用可能です。本治療法は副作用がテラプレビルに比べ少なく、従来のペグインターフェロン+リバビリン2剤併用と同程度とされています。開発治験では90%の著効率が報告されておりC型肝炎治療として画期的と期待されています。一方でC型肝炎がありながら検査を受けるチャンスがなく、わからないまま肝臓病が進行してしまう方がおられます。こういった方がないようにC型肝炎の検査を積極的に行い、肝硬変や肝臓がんにならないよう治療チャンスを作ることが医師の使命と考えます。

新しい治療はインターフェロン地域医療連携で行うこともできます。地域でC型肝炎を囲い込み一人でも肝臓がんになる人が少なくなればと考えております。

ご協力ご支援をお願い申し上げます。

消化器内科主任部長 井上敦雄

【(新) エコロジーガーデン事業を実施中です】

当センターでは、10月から施設内に観葉植物を配置することにより、患者さんやその家族の方々などに緑化によるやすらぎの空間を提供するエコロジーガーデンと名付けた院内緑化事業を行っています。配置する植物はCO²(二酸化炭素)やVOC(揮発性有機化合物)の吸収にすぐれており、土壌は消臭効果の高い活性炭や石灰岩を利用するなど空気浄化能力も備えており、鉢植えにして主に本館1階のやすらぎセンターや2階の病院ギャラリー付近を中心に正面玄関口や病棟に向かう廊下にも配置しています。なお、この事業はエコロジーガーデン事業の趣旨に賛同するグリーンオフィシャルスポンサーの応援を頂いて実施しています。

当センターでは、今後も来院される皆様方に少しでも心地よい環境を提供するため配置箇所の増加などに努めてまいります。

【分娩入院についての紹介動画を作成しました—産婦人科—】

当センターでの分娩について紹介する産婦人科の動画を新たに作成いたしました。分娩前から出産後までのお母さんへの支援や母親教室の様子などを分かりやすくお知らせしています。ぜひ一度ご覧ください。

アクセスは、当センターホームページ (<http://www.gh.opho.jp/>) 産婦人科まで。携帯サイトでも紹介動画をご用意しています (<http://www.gh.opho.jp/m/index.php>)。た

【無痛分娩（和痛分娩）を開始しました —産婦人科—】

当センターではこれまでから医学的に必要性のある方にのみ無痛分娩を行ってまいりましたが、このたび、妊婦さん自身のご希望による無痛分娩を開始いたしました。

当センターでは、より安全で、よいお産をしていただくために、産科医、助産師、新生児科医だけでなく、麻酔科をはじめとして、各診療科の協力を得て、妊娠分娩の管理にあたっております。妊婦さん自身が考えられるよりよいお産のために我々が何をできるかについて、是非ご相談ください。

無痛分娩は、硬膜外麻酔法によって分娩に伴う痛みを和らげる方法です。和痛分娩とも言い、分娩に伴う痛みがまったくなくなるわけではありませんが、痛みを大幅に和らげながら経膈分娩を行う方法です。

硬膜外麻酔法は、細くて柔らかいチューブを背中から腰の脊髄近く（硬膜外腔）に入れて、そこから鎮痛薬を少量ずつ注入することで行います。神経の近くに鎮痛薬を入れることから、使用する鎮痛薬の量は少量で、赤ちゃんに対する影響はほとんどありません。

日本ではまだ一般的とはいえませんが、欧米では広く実施されており、アメリカやフランスでは、全分娩の約6割が硬膜外無痛分娩によって行われています。

これまで、無痛分娩を希望される方でも、費用の面で不安を感じられる方が多かったことを考慮して、当センターでは、無痛分娩の分娩費用を約53万円の定額制としておりますので、安心してご相談ください。ただし、保険診療の適応となるような医学的処置を行った場合を除きます。

【～地域の医療機関の皆様へ～ 摂食嚥下専門外来について】

摂食嚥下専門外来は、地域の先生方が摂食嚥下障害の専門的評価や指導、治療が必要とされる時に、ご利用いただく専門外来です。外来は耳鼻咽喉科医と摂食・嚥下障害看護認定看護師を中心に必要に応じ多職種も交えて対応し、紹介患者様の継続診療が可能となるように総合的な介入を行います。従来から、大阪府下やさらに大阪府周辺地域の総合病院やリハビリテーション病院からの摂食嚥下障害への外科的治療（嚥下機能改善手術、喉頭気管分離や声門閉鎖術といった誤嚥防止術）に関する相談や実際の手術も積極的に受けており、必要な患者様には手術対応も可能です。

当専門外来での診察は、車いすや寝たきりの方も、適切に評価や指導を行えるようベッド上で診察を行う体制を整えました。そのような十分な診療体制のもと、嚥下障害と咽頭・喉頭・気管を専門とする耳鼻咽喉科専門医が嚥下内視鏡検査を行い、さら

に必要な患者様には嚥下造影検査を行い総合的な評価を行います。その上で、患者様の環境や全身状態に応じて適切な指導を行いたいと考えます。

嚥下障害の診察には十分な診察時間とさまざまな情報が必要のため、完全予約制で主治医からの紹介状と主たる介護者の同伴をお願いしております（診察日 金曜日 14時30分）。今後はさらに大阪の地域医療に貢献できる摂食嚥下専門チームとして力を尽くしていく所存ですので、何卒よろしく願いいたします。

耳鼻咽喉科主任部長 坂田義治

【シリコンバッグによる乳房再建が保険適用になりました】

今年7月より、従来自費診療であったシリコンバッグによる乳房再建が保険適用になりました。

今回、皮膚を伸ばす目的で挿入する「ティッシュ・エキスパンダー」というシリコン製のバッグと、最終的に乳房の形をつくる「ブレストシリコンバッグ」というゲル入りシリコンバッグの両方が保険用医療機器として認可されました。

それにより、従来は自費でしか治療できなかったシリコンバッグによる乳房再建が入院費や手術代を含め、すべて保険診療でまかなえる様になりました。（但し、一部の形のシリコンバッグは保険適応外）

自家組織による乳房再建と比べると、自分の体を傷つけることなく再建が可能で、万が一の場合に抜去することも可能です。

当センターでは、シリコンバッグによる乳房再建以外にも患者さんのニーズに合わせた多種多様な再建法が選択していただけるようなシステムを取っておりますので、是非お気軽にご相談ください。

形成外科主任部長 藤川昌和

【薬局からのお知らせです】

院外処方せんについて

当センターでは、外来患者さんのお薬は原則として「院外処方せん」を発行しています。「院外処方せん」は、ご自宅や勤務先近くの『保険薬局』で調剤してもらえます。

かかりつけの薬局を決めておくと、処方されたお薬の内容の記録（これを「薬歴」といいます）を保存し、当センターで処方されたお薬だけでなくほかの医療機関で処方されたお薬や市販薬に至るまで患者さんの薬歴を総合的に管理し、お薬の重複や相互作用をチェックすることができるので、より一層安全なお薬の使用が期待できます。また、「サプリメント（いわゆる健康食品）」のなかには、医薬品との相互作用を発現するものも多くありますので、服用しているサプリメントについても「かかりつけ薬局」の薬剤師にお伝えください。

薬局窓口横には、(社)大阪府薬剤師会の「院外処方せん相談窓口（ファクシミリコーナー）」が開設されており、患者さんにとって最適な保険薬局の紹介やかかりつけ薬

局への処方せんの FAX 送信、その他院外処方せんに関する様々なご相談に薬剤師会のスタッフが応じています。

お薬手帳について

患者さんに処方されたお薬の名前や飲む量、回数、飲み方、注意することなどを記録するための手帳です。病院・診療所、歯科医院、薬局では、必ずお薬手帳を見せましょう。同じお薬が重なっていないか、不都合な組み合わせ等についての確認ができます。

災害、事故、旅先での容体の急変など、緊急の場合にも医師の判断に役立ちます。常に携帯しておきましょう。お薬手帳は、どの医療機関・薬局でも使えます。1冊にまとめましょう。

【「医療相談」コールセンターのご利用を ー地域医療連携室ー】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でのご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【診察予約変更センター 9診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の9診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科
皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費や外来での検査費用の概算を予めお知らせするサービスをしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスも行っていきます。

今月の催し

【第19回万代・夢寄席 ～お正月だ、おめでたい太神楽がやって来る～】

日 時 1月9日（木） 午後2時～
場 所 本館3階 講堂
出 演 太神楽曲芸師 豊来屋玉之助
入 場 無料

【ふれあい病院探検隊 ～自分の将来の姿と出会う日～】

昨年もたくさんの高校生にお越しいただいた「ふれあい病院探検隊」を今年も開催します。ご参加いただいた方には医師や看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師など病院で働く人々の仕事を実際に体験し、将来の選択肢として医療業務を目指すきっかけをしていただければと開催するものです。開催にあたっては、相愛大学、森ノ宮医療大学、大阪府立大学にご協力いただいております。

日 時 1月12日（日） 午前10時～午後4時
場 所 当センター内各所
参加費 無料（但し、対象は府内高校1、2年生のみで先着500名）
※ おかげさまで定員に達しました。応募受付は終了させていただいております。

【相愛大学連携 第33回外来糖尿病教室

知って得する！ 糖尿病との付き合い方】

日 時 1月14日（火） 午後2時～
場 所 本館1階 アトリウム
内 容 糖尿病Q&Aよく聞かれる質問にお答えします
(糖尿病代謝内科医長 藤木典隆)
運動療法について (リハビリテーション科理学療法士 岡村憲一)
アルコールについて (栄養管理室管理栄養士 笠井香織)
参加費 無料

【すこやかセミナー「認知症」】

日 時 1月24日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階 保健教室
講 師 神経内科主任部長 狭間敬憲
参加費 無料

【(新) 第30回相愛大学連携コンサート

～暖かな歌声は冬の木洩れ日のぬくもりに似て～】

日 時 1月30日(木) 午後2時～
場 所 本館3階 講堂
出 演 声楽 井田繭子(ソプラノ)
梶山詩織(ソプラノ)
伴奏 高木理枝子(ピアノ)
入場料 無料

【第11回病院ギャラリー企画展 「京の美を巡る」

岩宮武二写真展 “日本の美 京いろとかたちシリーズより” 】

岩宮武二は1920年に鳥取県米子市に生まれ89年に没するまで、「今を生きる」を座右の銘に、今、現在生きていることを意識し、過去から現在、未来へと続いていく事象や形を豊かな感性で見つめる写真家として活動しました。

今回は第9回、第10回に引き続き岩宮武二写真展の第3弾として、京の美を巡ると称して岩宮の独特のカメラワークで切り取られた京都の名庭の数々を展示します。

開催期間 2013年12月24日(火)～2014年4月25日(金)

展示場所 本館2階 病院ギャラリー

展示作品 京いろとかたちシリーズ 26枚(銀閣寺、大徳寺塔頭ほか)

※ 本企画展は、大阪府立江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。

※ 2014年1月9日(木)13時30分から大阪府府民文化部都市魅力創造局文化課・主任研究員の中塚宏行氏による作品説明会(約20分間)を病院ギャラリーで開催いたしますのでご参加ください。

【(予告) 第20回万代・夢寄席 ～三代目桂春団治一門会～】

笑いをお届けしてとうとう20回、今年もみなさんに楽しい時をお届けします!

日 時 2月13日(木) 午後2時～
場 所 本館3階 講堂

出 演 落語家 桂 壱之輔
桂 福丸

入 場 無料

【(予告) すこやかセミナー「クローン病：潰瘍性大腸炎ってどんな病気」】

日 時 2月13日(木) 午後2時～3時

場 所 本館3階 保健教室

講 師 消化器内科診療主任 澁川成弘

参加費 無料

【(予告) 相愛大学連携 第34回外来糖尿病教室

知って得する！ 糖尿病との付き合い方】

日 時 2月19日(水) 午後2時～

場 所 本館1階 アトリウム

内 容 良好な血糖コントロールの第一歩～体重と食事～

(糖尿病代謝内科医師 片岡隆太郎)

感染対策とシックデイ (糖尿病看護認定看護師 後藤博美)

中食・外食もバランスを考えて (相愛大学人間発達学部

発達栄養学科教授 角谷 勲)

参加費 無料

【(予告) すこやかセミナー「末梢血管疾患について～全身の動脈硬化症を知る～」】

日 時 2月28日(金) 午前11時～12時

場 所 本館3階 保健教室

講 師 心臓内科診療主任 岩崎祐介

参加費 無料

Topics

【(新) 管理栄養士のコーナー ～ちょっとおいしい話～】



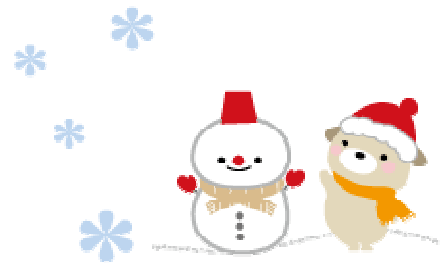
新年明けましておめでとうございます。お正月は、おせち料理など普段より豪華な料理を、ダラダラと食べ過ぎてしまった方も多いのではないのでしょうか。

新年は規則正しい食生活も新たにスタートさせたいものですね。

さて、今回は冬に旬を迎えるブリ（鱒）を、ゆずの香りを生かして減塩献立に仕立てた『ブリの柚庵焼き』を紹介します。

《材料》	(1人分)	(2人分)
ブリの切り身	1切れ 80g	2切れ 160g
A { 濃口醤油	小さじ1	小さじ2
{ みりん	小さじ1	小さじ2
{ 酒	小さじ1	小さじ2
ゆず	1/6個	1/3個

	(つくりやすい分量)
かぶ	中2~3個
B { 塩	小さじ1/2
{ 砂糖	大さじ1
{ 酢	大さじ3
{ 赤唐辛子	小口切り1本



(1人前) エネルギー:250kcal たんぱく質:18.6g 脂質:13.9g 食塩相当量:1.2g

- ① かぶは皮を剥き薄切りにし、塩をまぶして10分おく。水分を絞り、材料Bに漬け込む。
- ② ゆずの皮を薄く剥き、千切りにして飾り用にとりおく。ゆずの実の部分は薄切りにし、材料Aと合わせ、ブリを30分漬ける。
- ③ グリルを使用して両面焼き上げ、両面に②のタレを2、3度塗って乾かす。
- ④ ブリを皿に盛りつけ、ゆずの千切りを上のにせる。かぶを添えれば完成!

ブリは血液をサラサラにされているEPA（エイコサペンタエン酸）を豊富に含んでいますが、魚の中でもエネルギーが高めです。エネルギーを低く抑えたい方は、鮭やサワラに代えてもおいしくいただけます。

栄養管理室 管理栄養士 貴志 菜穂子

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラストの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 初診窓口担当 長畑さんの巻】

私は十月に入社し、初診窓口で業務をしています。入社当時は新しい環境の中で初めての仕事の連続に戸惑う事も多くありました。しかし、先輩方に教えて頂きながら、業務を行う中で少しずつ慣れるようになってきました。

この二ヶ月間の窓口業務を通してとても印象に残っていることがあります。
久しぶりに来院された患者様に、検査室と診療科の場所を院内地図を使ってご案内しました。その時、患者様から「この病院の方の対応は気持ちがいいね。」とお声をかけて頂きました。一人でも多くの患者様に同じように思ってもらえる対応をこれからも心がけようと思いました。

また、窓口では、色々なことを質問されます。内容によっては、まだすぐに答えることができないこともあります。これからはもっと多くのことを学び、知識を身に付けて患者様のお役に立てるよう日々努力していきたいと思えます。

その他のお知らせ

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debitに加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページの「メールマガジン申込み」からアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページの検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。